



IVM60周年記念行事で発表しました

11月18日、モンゴル獣医薬研究所（IVM）の創立60周年を記念した国際シンポジウムがオンラインで行われ、BeeDep プロジェクトマネジャーの西山が「養蜂と持続可能な地域開発」をテーマに発表を行いました。養蜂とプロジェクトの概要に加え、ダニの物理的防除方法の試験など IVM と協力して行っている活動や、モンゴル養蜂の発展において IVM の果たす役割について話しました。

11月23日には、同じくIVMの60周年を記念した科学産業会議が行われ、プログラムオフィサーのウーガンバヤルが「養蜂のための獣医サービス」について発表しました。「養蜂業における衛生管理及び獣医業務のための一般指針」の実施を支援するプロジェクトの活動に加え、関係組織や専門家の能力の向上、および試験研究などについて話しました。

BeeDep-MONGOLの活動をきっかけにIVMに設立されたミツバチ衛生医薬研究室は、養蜂技術の開発を担い、今後のモンゴル養蜂業の発展に大きく貢献することでしょう。



IVM60周年記念行事で発表する西山（上：上部中央）とウーガンバヤル（下：画面下）

越冬に関する実証試験を実施中

モンゴルの養蜂では、春にミツバチが越冬庫から出た後に生じる、交尾済の女王蜂の不足が大きな問題となっています。このためプロジェクトでは、セレンゲ県シャーマル郡、ダルハンオール県オールホン郡、およびウランバートル（モンゴル獣医薬研究所）の養蜂場（各1か所）と協力し、**交尾箱で女王蜂を越冬させるための実証試験**を開始しました。

また、IVMのミツバチ衛生医薬研究室との協力の下、**越冬時のミツバチの餌に関する試験**を行っています。ミツバチが越冬中に死んでしまう要因の1つは栄養失調であることから、日本とモンゴルの経験に基づき、越冬に適した餌の作り方や使い方を実証していきます。

それぞれの試験結果は、来年の春に、プロジェクトのFacebookで詳しく紹介する予定です。



（左上） 実証に使う越冬中の餌の1つ、シュガーキャンディを作る干場専門家。日本からオンラインで作り方を実演した
（左下） 完成したシュガーキャンディ
（右） モンゴルでの実証試験の様子

プロジェクトFacebook :

www.facebook.com/BeeDep-MONGOL-2-107843977265085/?modal=admin_todo_tour

オンラインセミナー配信中！

